

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25244035

研究課題名(和文) 中近世キリスト教世界の多元性とグローバル・ヒストリーへの視角

研究課題名(英文) Studies on the diversities and multiplicities of Christian Societies in Medieval and Early Modern Times

研究代表者

甚野 尚志 (Jinno, Takashi)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：90162825

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,700,000円

研究成果の概要(和文)：我々のプロジェクトは、中近世のキリスト教に関わる諸問題をさまざまな視角から分析することを目指した。それも地域的には、ヨーロッパ世界に広がったキリスト教の問題だけでなく、布教活動とともにキリスト教化した他の世界の諸地域も対象とした。これまでの研究は主として、中近世キリスト教の非妥協的態度、迫害社会の形成、異教徒との対決の視点から研究がなされてきたが、我々は最近の研究動向に従い、中近世キリスト教世界の多様性やことなる宗教の共存に光があてつつ研究活動を行ってきた。この間の多くのワークショップなどの成果に基づき、各分担者が論文などで中近世のキリスト教史の新しいイメージを提示できた。

研究成果の概要(英文)：Our project aimed to clarify the different aspects of the development of Medieval and Early Modern christianity as it spread out not only in Europe, but also to the other parts of the World under the influence of the process of christianization'. The previous researches had emphasized the orthodoxy of the christianity and its uncompromised attitudes, such as the establishment of Europe as a 'persecuting society', confrontation with the pagans, missionary activities, conversion by force, religious war. But recent studies shed a new light on the pluralism of christian culture as well as the co-existence of different religions and churches in medieval and Early Modern Times. Our project has been performed according to such new trends and has held many workshops not only in Japan but also in Italy. We could present new images about the history of Medieval and Early Modern christianity in our papers which we have produced as results of many discussions between researchers.

研究分野：西洋中世史

キーワード：中世教会史 カトリック プロテスタント 異端 宗派化 キリスト教布教

1. 研究開始当初の背景

本科研は、現在最終年度の科研・基盤(B)「ヨーロッパ史における政治と宗教のダイナミズムと国家的秩序の形成」(平成 22-24 年度)を継承し拡大・発展させるものである。これまでの科研が「ヨーロッパ」という枠組を基本的前提としてきたのに対し、今回は「キリスト教世界」という地理的な枠組で、中近世ヨーロッパとその外部に広がるキリスト教文化圏 - アメリカ大陸、地中海・中東、アジア - にも考察の視点を広げ、これまで経済史・商業史の視角からもつばら語られてきた中近世世界のグローバル・ヒストリーを、宗教文化史的な視点に立つ「文明の連関史」として再考する。それにより、中近世ヨーロッパで多元的に形成されたキリスト教文明が、いかなる形で他地域に接続され、独自の発展を遂げたかを解明し、新しい世界史像の構築に寄与することを目的とした。

2. 研究の目的

本科研プロジェクトは、すでに述べたように、基盤(B)「ヨーロッパ史における政治と宗教のダイナミズムと国家的秩序の形成」の拡大・発展を目的として始まった。この基盤(B)では、我々は、中近世ヨーロッパ世界における政治権力構造の発達を、キリスト教の諸宗派(カトリック、ギリシア正教、異端諸派、プロテスタント諸派)の多元性と宗派化の過程との関連で考察してきた。すなわち、中世から近世にかけてのヨーロッパ世界では、キリスト教が多元的にそれぞれの宗教世界を構築するとともに、特定の宗派教会と政治権力が一体化し、同一宗派の政治勢力(国家ないし領邦)のブロック化が進行し、教会、国家、社会のあらゆる領域で宗派化が進展する。我々はその実態を地域ごとに解明し、また諸宗派間の紛争の形態や、調停の制度と寛容理念の形成も考察した(参照、踊共二「宗派化論:ヨーロッパ近世史のキーコンセプト」『武蔵大学人文学会雑誌』42(3/4)号、2011年。現在の科研の成果は「日本西洋史学会」の2011年と2012年の小シンポジウム「中世ヨーロッパ世界にとっての「ローマ」」、「近世ヨーロッパの宗教と政治 - 宗派分裂の作用と反作用」で中間報告がなされたが、最終的に17本の論文集 - 甚野尚志・踊共二編『中近世ヨーロッパの宗教と政治 - キリスト教世界の多元性と統一性 -』ミネルヴァ書房 - として2013年に刊行された)。このような基盤(B)の科研の成果を継承しつつ、本科研プロジェクトでは、考察対象を他のキリスト教世界にも広げ、地域ごとに4つのグループ(ヨーロッパ班、中南米班、地中海・中東班、アジア班)を作り、キリスト教諸宗派が、いかに地域の権力や社会組織の形成に寄与したかを分析した。4つの班の中心となる「ヨーロッパ班」は、中近世ヨーロ

ッパにおけるキリスト教会の多元性や宗派化の様態を、他地域と比較しうるモデルに高めて提示し、また同時にヨーロッパ地域と地中海・中東、中南米、アジアのキリスト教世界との宗教文化的な接続関係について考察した。

さらに、本科研プロジェクトの「地中海・中東班」は、「ヨーロッパ班」が提示する中近世ヨーロッパに関する比較モデルを援用しつつ、キリスト教会の多元性と宗派化の問題を、地中海・中東地域のイスラーム支配下のキリスト教徒諸集団に関して考察した。また「地中海・中東班」のイスラーム史を専門とする分担者は、イスラーム教における多元性や宗派化の現象を、キリスト教での同種の現象と比較しつつ考察し、キリスト教とイスラーム教の相互影響関係を明らかにするとともに、イスラーム国家で宗教と政治が取り結んだ関係を解明した。

さらに、本科研プロジェクトの「中南米・北米班」は、アメリカ大陸で形成されたキリスト教世界を考察の対象とした。スペインが16世紀に中南米を植民地化した際には、カトリック教会がスペインの植民地統治体制の確立に大きな役割を果たしたが、教会は、統治を支える制度として機能したのみならず、土着の宗教に帰依していたインディオをキリスト教化し、規律化することにも貢献した。近世の中南米では、同時代のヨーロッパ世界と同様に、教会と植民地の統治権力が一体化し、社会の全領域を宗派化する状況が見取れる。また同時代には、イングランド国教会による北米植民地のキリスト教化がなされるが、そこでも類似の宗派化現象が生じている。本科研の「中南米・北米班」は、ヨーロッパの宗派化現象と比較しつつ、アメリカ大陸でのキリスト教化がヨーロッパと類似の現象を引き起こした状況を分析し、近世アメリカ大陸で形成された社会構造の特性を解明した。

さらに、科研プロジェクトの「アジア班」は、ポルトガルのインド植民地、スペインのフィリピン植民地におけるキリスト教会の政治的・社会的役割について考察し、そこで、同時代のヨーロッパでの宗派化現象と類似の事象が存在したかどうかを解明した。また16世紀後半に、世界中に植民地を獲得したスペイン王国では、グローバルな規模での人やモノの移動が実現したが、その際、本国の制度、習俗が植民地に接続され新たな発展を遂げた。この事象はグリュジンスキが「接続された歴史 connected histories」と呼び、その歴史的意義を強調したが、本科研の「アジア班」は、キリスト教布教に伴いアジア地域に接続された制度や習俗についても考察した。

以上のような研究とともに、グローバルヒストリーについての考察も行った。グローバル・ヒストリーとは、現代のグローバル化に対応して「一国史観」や「ヨーロッパ中心主義」を排し、世界史を、地域の相互交流の視点か

ら「文明の連関史」として理解する新しい歴史学の潮流であり、ウォーラステインの『近代世界システム』、マクニールの『疫病と世界史』の研究などがグローバル・ヒストリーのさきがけといえるが、これまでグローバル・ヒストリーは、商業交易や疫病の歴史など、経済や環境に関するテーマで語られてきた。本科研では、ヨーロッパ世界で多様な発展を遂げ宗派化現象を生んだキリスト教が、ヨーロッパ世界を越えて拡大・浸透した際に、ヨーロッパ世界と類似の事象を他の地域でも生じさせながらキリスト教文明の接続を行った状況を解明し、それを中近世世界のグローバル・ヒストリーとして描くことを研究の目標とし、一定の成果を出すことができた。

3. 研究の方法

考察対象となる地域が、中近世ヨーロッパだけでなく、地中海・中東地域、中南米・北米地域、アジア地域と広範囲に及ぶので、1年目は各分担者の間で、研究の対象や分析の方法についての共通理解の確立に努めた。また、各分担者が国外で研究動向の調査や資料収集を行い、みずから取り組むテーマを設定し研究を行った。2年目には、各分担者が研究の中間報告を行い、分担者間相互の討論を重ねた上で問題の分析の視角を明確にし、中間成果を総括する国際シンポジウムをイタリアのトレントで開催した。3年目には、全体のテーマに関する分担者間の共通認識を構築しながら、各自の論文の構想を練る。また中間成果を総括する国際シンポジウムをイタリアのトレントで開催した。4年目には、科研を総括する国際シンポジウムを同じくイタリアのトレントで開催した。本科研プロジェクトの研究目的を以下の方法で行った。

基盤となる研究会 - 「教会と社会」研究会 - 中近世のヨーロッパ -

本科研代表者の甚野は、中近世ヨーロッパの教会史を新しい視角から研究すべく、2005年7月に「教会と社会」研究会 - 中近世のヨーロッパ -」（“Ecclesia et Societas” Workshop, 略称 ES 研）を発足させた。この研究会には首都圏のみならず全国の研究者・院生が参加し、すでに33回の例会と3回の外国人研究者の講演会を開催した。ES 研は現在では、教会史のみならず広く中近世史に関心をもつ研究者の交流の場になっている[活動状況は(www.es-ken.net)参照]。本科研もこの研究会を基盤にしつつ、また同時に、甚野が所長を務める「早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所」[活動状況は(www.waseda.jp/prj-iemrs)参照]とも連携し、科研メンバーの研究会、国際シンポジウム、招聘研究者の講演会などを開催し、研究成果を外部に積極的に発信していった。

「ヨーロッパ史における政治と宗教のダイナミズムと国家的秩序の形成」の拡大・発展

本科研の代表者の甚野は、今年度まで科研・基盤(B)「ヨーロッパ史における政治と宗教のダイナミズムと国家的秩序の形成」のプロジェクトを遂行し、キリスト教各宗派が中近世世界で国家的秩序の形成に果たした役割を、地域ごとに様々な視点から考察してきた。その過程で当該の問題が、ヨーロッパのみならずそれを越えた「中近世キリスト教世界」の地理的な枠組で比較考察が可能であり、またそうした比較により、中近世ヨーロッパ世界の深層がより鮮明に解析できるという展望を得るに至った。また現在、歴史学ではグローバル化の時代に対応した新しい世界史の構築が求められているが、本科研プロジェクトもそれを意識し、「ヨーロッパ」から「中近世キリスト教世界」へと領域を地理的に拡大するだけでなく、宗教政治史の視点から中近世のグローバル・ヒストリーを提示することを共同研究の目的とした。

分担者の役割と海外の連携研究者

本科研プロジェクトでは、西欧中近世史(甚野、関、印出、根占、踊、皆川)、ロシア中近世史(三浦)、ビザンツ史(大月)の研究者に加え、ヨーロッパ外のキリスト教世界に視野を広げるため、イングランドと北米の関係(青柳)、スペインと中南米の関係(網野)、イスラーム世界内のキリスト教徒(大稔、太田)、ポルトガルとインド植民地の布教(黒谷)、スペインとフィリピン植民地の布教(平山)の研究者を新たに加え、研究体制を構築した。

4. 研究成果

2013年度には、11月にイタリアのブルーノ・ケスラー財団イタリア・ドイツ研究所に所属するフェルナンダ・アルフィエリ氏を基調報告者として国際シンポジウムを開催した。シンポジウムの統一テーマは「トレント公会議と近世キリスト教世界」であり、同公会議前後において、教会が良心や罪、またそれと関連する諸問題についてどのような形で再定義し、統制を強めていったのかを議論した。同シンポジウムでは、科研の研究分担者2名が報告者として登壇したほか、4名がコメントを行い、さらにはこのシンポジウムの成果を早稲田大学の『西洋史論叢』で公刊した。これ以外に、数回、研究分担者が報告する研究会を開催した。

2014年度には、10月末にイタリアのトレントのイタリア・ドイツ歴史研究所で、中近世の教会史に関するイタリア人研究者とのワークショップを開催した。7月末にはその予行演習を兼ねた研究会も開催し、トレントでのワークショップは、Medieval and Early

Modern Religious Histories from Europe and Japan というタイトルのもとで開催され、研究分担者のうち5名が報告した。このほかに、たとえば12月には「中世の東方教会をめぐる」と題する研究会を開催するなど、活発な研究活動を行った。

2015年度にも研究会を何度も開催した。7月には、イタリア中世史研究者のセレーナ・フェレンテ氏を招聘し、講演会を開催した。12月には、イタリアのトレントのイタリア・ドイツ歴史研究所で、Medieval and Early Modern Religious Histories from Europe and Japan の第二回ワークショップを開催し、研究分担者5名が報告した。また3月には、トリア大学名誉教授のアルフレート・ハーフェルカンプ教授を招聘し、中世のユダヤ人の歴史に関する講演会を行った。

2016年度には5月に慶應義塾大学で開催された日本西洋史学会で小シンポジウム「長い「宗教改革」か？長い「中世」か？ - ヨーロッパ中近世の教会改革と社会」を研究分担者が主体となって開催した。また、11月末には、イタリアのトレントのイタリア・ドイツ歴史研究所で、Medieval and Early Modern Religious Histories from Europe and Japan の第三回ワークショップを開催し、研究分担者5名が「宗教と暴力」に関するテーマで報告した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

踊共二, 「近世の宗教と政治 - 日欧比較の一視点 - 」, 『歴史学研究』, 941号, 2016年, 3-12頁.

印出忠夫, 「永遠のミサを保証する永遠の収入」, 『西洋中世研究』, 8号, 2016年, 209-228頁.

大月康弘, 「ビザンツ帝国とオイコノミアの表象」, 『国立新美術館紀要』, 3号, 2016年, 146-159頁.

疇谷憲洋, 「ボンバル研究序論」, 『大分県立芸術短期大学紀要』, 54号, 2017年, 43-55頁.

三浦清美, 「中世ロシア文学図書館(X)」, 『電気通信大学紀要』, 29-1号, 2017年, 1-29頁.

〔学会発表〕(計4件)

甚野尚志, “Jesuit Political Thought and Condemnation of Tyranny: The Doctrine of Tyrannicide of Juan de Mariana and its Medieval Origins,” *Medieval and Early Modern Religious Histories from Europe and Japan*, 2016/11/25, Trento, Italy.

皆川卓, “Rediscovery of Martyrdom. Social Background of a Violent Self-discipline in the Age of Carlo Spinola, S.J.,” *Medieval and Early Modern Religious Histories from Europe and Japan*, 2016/11/25, Trento, Italy.

青柳かおり, 「18世紀における奴隷の教育と海外福音伝道協会」, 日本西洋史学会第66回大会, 2016年5月22日, 慶應義塾大学.

太田敬子, 「アッバース朝期における ahl al-dhimmah 規定の明文化の背景とその後の展開」, 日本オリエント学会 58回大会, 2016年11月13日, 慶應義塾大学.

〔図書〕(計3件)

甚野尚志, 『朝河貫一と日欧中世史研究』, 吉川弘文館, 2017年, 総頁259頁.

関哲行, 『忘れられたマイノリティ: 迫害と共生のヨーロッパ史』, 山川出版社, 2017年, 総頁244頁.

根占献一, 『イタリアルネサンスとアジア日本』, 知泉書館, 2017年, 総頁290頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

甚野尚志 (JINNO, Takashi)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号: 90162825

(2) 研究分担者

大稔哲也 (OTOSHI, Tetsuya)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号: 10261687

平山篤子 (HIRAYAMA, Atsuko)

帝塚山大学・経済学部・教授

研究者番号: 20199102

踊共二 (ODORI, Tomoji)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号: 20201999

三浦清美 (MIURA, Kiyoharu)

電気通信大学・情報理工学部・教授

研究者番号: 20272750

印出忠夫 (INDE, Tadao)

聖心女子大学・文学部・教授

研究者番号: 30232721

青柳かおり (AOYAGI, Kaori)

大分大学・教育福祉学部・准教授

研究者番号: 30634696

太田敬子(OTA, keiko)
北海道大学・文学研究科・教授
研究者番号 : 40221824

根占献一(NEJIME, Kenichi)
学習院女子大学・国際文化交流学部・教授
研究者番号 : 50208287

関哲行(SEKI, Tetsuyuki)
流通経済大学・社会学部・教授
研究者番号 : 60206620

網野徹哉(AMINO, Tetsuya)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号 : 60212578

大月康弘(OTSUKI, Yasuhiro)
一橋大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号 : 70223873

疇谷憲洋(KUROTANI, Norihiro)
大分県立芸術短期大学・准教授
研究者番号 : 80310944

皆川卓(MINAGAWA, Taku)
山梨大学・教育学研究科・教授
研究者番号 : 90456492